

通し番号	3756
------	------

分類番号	12-25-14-07
------	-------------

(成果情報名) ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)の効果的防除方法の検討	
[要約] 近年県内抑制キュウリで発生が多いワタヘリクロノメイガ(幼虫)に対して、ほ場における薬剤効果確認試験を行ったところ、ウリ科で登録のある薬剤のうち、防除効果が高く防除効果期間の長い薬剤が選定できた。	
(実施機関・部名) 農業総合研究所 農業環境部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

近年県内抑制キュウリではワタヘリクロノメイガによる食害が問題になっているが、生態について解明されていないことも多くまた、効果的防除薬剤の登録についても少ない。今回は、ウリ科に登録のある農薬を中心とした薬効試験を行い効果的な防除薬剤の選定を行う。

[成果の内容・特徴]

1 11年度,12年度共にB T顆粒水和剤(デルフィン顆粒水和剤)1,000倍、エマメクチン安息香酸塩乳剤(アフーム乳剤)2,000倍は効果があり、実用性があると考えられる。また、アセタミプリド水溶剤(モスピラン水溶剤)2,000倍は前記2剤より効果がやや劣るものの効果はあり、実用性はあると考えられる。12年度の結果のみではあるがエトフェンプロックスEW(トレボンEW)1,000倍、フルフェノクスロン乳剤(カスケード乳剤)2,000倍も効果があると思われる。クロルフェナピルフロアブル(コテツフロアブル)2,000倍は年による効果の差が見られた(表1、2)。

2 薬剤散布24日後の調査ではフルフェノクスロン乳剤の効果が高く、クロルフェナピルフロアブル、エマメクチン安息香酸塩乳剤は程度が低いものの効果が認められた。また、食害痕のみでは分類できないため、ワタヘリクロノメイガ及びウワバ類幼虫のキュウリ葉への被害度を調べたところフルフェノクスロン乳剤区、エマメクチン安息香酸塩区が最も低く次いでクロルフェナピルフロアブル区が低かった(表2)。

幼虫寄生部位については、全体の62%は主枝、側枝の頂芽付近に寄生している事が認められたため、薬剤の防除にあたっては頂芽付近を重点的に散布することが必要である(表3)。

[成果の活用面・留意点]

実際の防除段階では、防除効果及び防除効果期間の長いフルフェノクスロン乳剤、エマメクチン安息香酸塩乳剤を中心としたうえで、さらに幼虫の発生が見られる場合は他の薬剤ローテーションで使用することにより効率的な防除が行えると考えられる。

なお農薬の使用に当たっては、登録の有無を確認のうえ使用する。

[具体的データ]

表1 メロンのワタヘリクロノメイガに対する散布剤の処理効果（平成11年度）

供試薬剤	希釈倍率	補正密度指数
		散布後3日（10/4）
エマクチン安息香酸塩乳剤	2000倍	1.1
B T 顆粒水和剤	1000倍	1.7
ケルフェト°ルフロア°ル	2000倍	3.4
アセタミ°リト°水溶剤	2000倍	29.8
無処理		100.0

調査株数は5株/区、反復なし

表2 キュウリのワタヘリクロノメイガに対する散布剤の処理効果（平成12年度）

供試薬剤	希釈倍率	登録の有無	補正密度指数				被害度
			散布3日後 (9/5)	6日後 (9/8)	9日後 (9/11)	24日後 (9/26)	24日後
エマクチン安息香酸塩乳剤	2000倍		5.4	10.9	33.0	42.4	21
B T 顆粒水和剤	1000倍		16.5	18.9	52.1	115.2	57
フルフェノキサロン乳剤	2000倍	-	21.5	16.4	20.8	3.8	21
ケルフェト°ルフロア°ル	2000倍	-	17.3	31.2	41.9	40.4	34
イトフェン°ロックスE W	1000倍	-	15.7	10.6	15.7	58.3	46
アセタミ°リト°水溶剤	2000倍	-	48.4	24.6	69.6	152.5	66
無処理		-	100.0	100.0	100.0	100.0	67

調査株数は9/11まで6株/区、2連制、26日は3株/区、2連制。

・補正密度指数= (T_a × C_b) / (T_b × C_a) × 100 (T_a: 処理区の散布後生息密度、T_b: 処理区の散布前生息密度、C_a: 無処理区の散布後生息密度、C_b: 無処理区の散布前生息密度)

一般害虫における無処理に対する薬剤処理効果判定基準、10以下: 効果は高い、10~30: 効果はある、30~50: 効果は認められるがその程度はやや低い、50以上: 効果は低い

野菜害虫殺虫剤圃場試験法 (社団法人 日本植物防疫協会) より

・被害度=(0*A+1*B+2*C+3*D+4*E) / { 4*(A+B+C+D+E) } *100

A: 被害軽微葉数、B: 被害少葉数、C: 被害中葉数、D: 被害多葉数、E: 被害甚葉数

表3 発生初期における寄生部位

	計 (割合)		頂芽 (割合)		側芽 (割合)		その他 (割合)	
	(頭)	(%)	(頭)	(%)	(頭)	(%)	(頭)	(%)
若 齢	266	(85.0)	82	(26.2)	110	(35.1)	74	(23.6)
中 齢	47	(15.0)	15	(4.8)	9	(2.9)	23	(7.3)
合 計	313	(100.0)	97	(31.0)	119	(38.0)	97	(31.0)

[資料名] 平成11、12年度試験研究成績書 (農業環境)

[研究課題名] ワタヘリクロノメイガ (ウリノメイガ) の効果的防除方法の検討

[研究期間] 平成11~12年

[研究者担当名] 深澤 智恵妙